

<p>校種 (学級種別)</p>	<p>小学校 (知的障がい特別支援学級)</p>	<p>本事例の 教科等名</p>	<p>自立活動</p>
<p>在籍児童 生徒の実態</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生 ・日によって気分が安定しない。 ・1時間の学習では3つ（プリント・教科書・タブレット）のパターンで学習している。 ・突然の変更、初めてのこと等は苦手。 ・学習は自分の好きなことであれば20分は集中して行うことができる。 ・自分のしたいことが我慢できないときがあり、興味があるものについては一人で長時間取り組むことができる。 ・語彙が少なく、意思表示をすることが苦手。 	<p>目標 ・ 指導 内容</p>	<p>【目標】 生活に見通しを持って、自分で決めた時間まで課題をする</p> <p>【関連する内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の保持 (1) 2. 心理的な安定 (1) (2) (3) 3. 人間関係の形成 (3)

指導の経過・工夫点・子どもの変容

日課表とリンクさせた色で日課表を組む

行事の見通しも見えるように

1日できたことを可視化

予定を自分で組む

【指導・支援の経過】

- ・その日の学習の初めに1日の流れを一緒に確認する。また、1時間の学習でも自分で順番を決めたり、時間を決めたりして見通しを持つようにする。
- ・終わった活動はわかるようにひっくり返して可視化できるようにしている。
- ・学級在籍が一人であるため、国語・算数以外で本人と一緒に学習できそうな教科の場合は交流学級で同学年の児童と過ごせるように支援をする。
- ・国語・算数ではやる気が出るように本人の好きな「ポケモン」のプリントを用意したり、「頑張りカード」や「ひらがなカタカナ表」を作ったりして意識が高まるようにしている。
- ・交流学級でも支援学級でも自分がやりたいことやしたいことがあるときは教師に必ず伝えてから行動する決まりを作っている。

【児童の変容】

- ・1学期は教師側が提示したものや言った言葉を繰り返していたが、2学期からは1日の予定を交流学級できちんと聞いて、支援学級で自分から予定を貼りなおしたり、変更についても教えてくれたりするようになった。
- ・決めた時間を守れないことも多かったが、やることがわかれば時間になると自分のすることに取り組めることが増えるようになった。

<p>成果と課題・ 今後の方向</p>	<p>○1日の見通しや1時間の見通しを持たせることで、活動や教室移動などが自分でもわかるようになり、学習にも積極的に取り組む場面が増えてきた。</p> <p>○1日の流れを交流学級で聞くことから始まるので話を注意深く聞くことについてもできるようになってきている。</p> <p>▲見通しをもった活動ができてきているが、やはり気分によるところも多く見られるので気持ちのコントロールができるような取り組みもしていく必要がある。</p> <p>▲できるだけ本人の意思を基本に一緒にスケジュールを組んでいるが、やりたくない場合の活動の選択肢をもっと増やしておく必要がある。</p> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人ができることや頑張らせたいことを明確にする。 ・支援学級での目標と交流学級での目標を決め、それぞれでできることを分けて授業のとりかかりや入り方などがスムーズにできるように細かく観察していきたい。 ・見通しを持ち、行動することで学習や行事に自主的に取り組めるように経験を積みませていきたい。
-------------------------	--